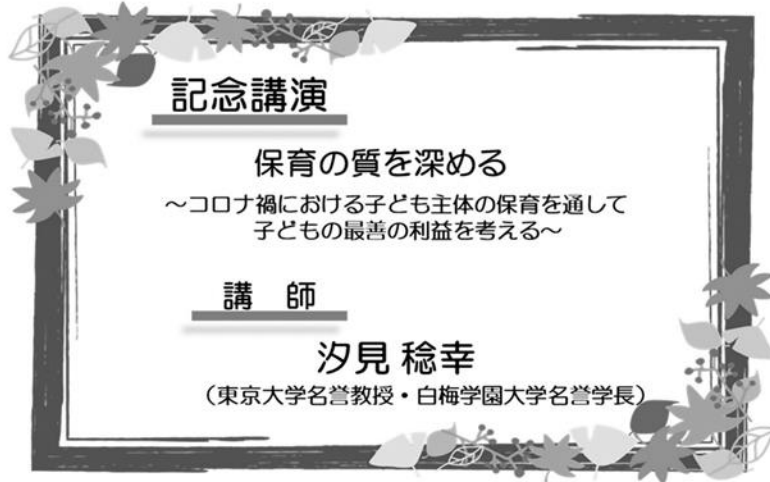


第23回 大阪保育子育て人権研究集会



【開催方法】

■ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、記念講演はDVDや動画配信、分科会（実践報告）は、冊子に掲載します。

- ①コース<冊子1冊+記念講演動画配信付>
- ②コース<冊子1冊+記念講演DVD付>

【記念講演動画配信期間】

■ 令和4年2月1日（火）～2月28日（月）まで

【参加費】

- ①コース（冊子1冊+記念講演動画配信付） 2,000円 <大阪府内の市町村>
- ②コース（冊子1冊+記念講演DVD付） 2,000円 <大阪府内の市町村>
- ①コース②コース共それぞれ 4,000円 <大阪市及び他府県の参加者>

<主催>第23回大阪保育子育て人権研究集会実行委員会

北摂ブロック（池田市・能勢町・豊能町・豊中市・吹田市・高槻市・茨木市・箕面市・摂津市・島本町）
大阪府・堺市・東大阪市・枚方市・八尾市・寝屋川市・大阪府市長会・大阪府町村長会

<後援依頼組織（予定）>

大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・堺市教育委員会・東大阪市教育委員会・枚方市教育委員会・八尾市教育委員会・寝屋川市教育委員会・社会福祉法人大阪府社会福祉協議会・社会福祉法人大阪市社会福祉協議会・一般社団法人大阪市私立保育連盟・一般社団法人大阪府私立幼稚園連盟・一般社団法人大阪市私立幼稚園連合会・一般財団法人大阪府人権協会・認定NPO法人児童虐待防止協会・NPO法人おおさかこども多文化センター・北摂ブロック市町の教育委員会、社会福祉協議会など

研究集会ご案内

昨年来の新型コロナウイルス感染が変異株に変わり、乳幼児にも広がりつつある状況となっています。マスク着用、熟食、音楽やふれあい遊びの制限など、感染を予防するためにせざるを得ない保育環境が、これからの子どもたちの育ちにどのような影響を与えるのか大いに気になるところです。

昨年末に大阪府立大学が行った親子3600人への調査で、9歳から18歳の子どもの約9割がコロナ禍によるストレスを抱えていることが報告されました。とりわけ保護者の経済的・精神的不安定が子どもに与える影響の大きさを示しています。このような状況に置かれた子どもと保護者に、子どもの最善の利益を保障する視点で保育ができる事は何かを追究していきましょう。

今年23回目を迎えた大阪保育子育て人権研究集会は、現状のコロナ下で一堂に会しての開催はできませんが、記念講演をDVDや動画配信で、また実践報告を書面で学んでいただくという方法で開催いたします。動画配信等のメリットを活かし、職員の方々と学びを共有し明日からの保育に光を見いだせる研究集会となりますことを願っております。

記念講演

保育の質を深める

～コロナ禍における子ども主体の保育を通して
子どもの最善の利益を考える～



講師

汐見 稔幸

（東京大学名誉教授・白梅学園大学名誉学長）

<プロフィール>

2018年3月まで白梅学園大学・同短期大学学長を務める。
東京大学名誉教授、日本保育学会会長、白梅学園大学
名誉学長、全国保育士養成協議会会長、
社会保障審議会児童部会保育専門委員会委員長、
一般社団法人家族・保育デザイン研究所代表理事。
専門は教育学、教育人間学、保育学、育児学。

指針・要領等、3法令の改定から3年、改めて保育者一人ひとりが、自分たちの保育や子どもと向き合う姿勢、保育の質について考える機会でもありました。今、保育現場の現状は、どのように変わってきたでしょうか。

子どもが主体的に生活し、仲間関係や知的好奇心を育てるために何が大切なのでしょう。子どもの主体性を重視した深い学びにつながる環境づくりや、子どもが主体的に様々な人や物に関わっていく力と大きくつながると言われる非認知的能力の育ちを支援する保育について、また、コロナ禍における感染症対策と創意工夫による保育実践など、保育者に求められている保育のあり方について学び合しましょう。